

廃自動車の解体業から、リユースのネットビジネスで大変身をとげる……(有)吉田商会

インターネットによる全国オンラインシステムで「補修部品」に新しいマーケットを創出。

循環型社会は確実に進んでいます。さまざまな廃棄物がリサイクルされ、新しい資源として再び産業界へ。また、再生部品、再製品として再び消費者の手元に。資源の有効利用はこれからの社会の大きなテーマです。



(有)吉田商会(豊橋市下地町野箱59の2/吉田広喜社長)は、後者のリユース、リサイクルにネットビジネスの新しい戦略を加えて一大変身をとげた会社です。その躍進ぶりは経営方針の転換後わずか2

年で売上、利益とも2倍強に急成長、“不況をアイデアで生き抜く企業”としてテレビ、新聞等にも紹介され、話題を集めました。

昭和54年に創業。平成元年までの10年間は解体一貫に取り組んでいましたが、不況で多くの同業者が倒産、廃業に追い込まれていくなか、平成4年1月、廃自動車から取り出した中古部品を「補修部品」に提供する全国ネットのオンラインシステムの存在を知り、経営方針を転換。ネットビジネスに回収業の未来をかけました。

吉田社長はこの決意について「廃車にされる乗用車は、当時1台当たり約1万円程度の価格で購入し、それを解体し、鉄・アルミ・ガラスなどを資源として再生業者へ転売することで商売を行なっ



ていましたが、この不況下でどの業者もコストダウンの波をまともにかぶり、現状では1台当たり約1万円の“処分費用”を負担してもらわないと採算がとれない状況になりました。」と厳しい現状を指摘。そんな先行きに不安を感じているところにコンピューターによるネットビジネスと出会い、これだと確信し、資料を取り寄せ加盟。解体のノウハウと技術を生かし、そこにインターネットにオンラインで直結し、宅配便の物流ネットも複合的に結び付けることで、大企業にまけない付加価値が生まれ、中古部品のリユースの市場に大きな可能性を開くことがビジネスチャンスにつながったといえます。

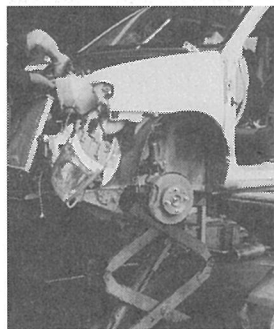
全国190拠点、常時65万点の再生補修部品がネット上で検索。

同社が加盟するNGP(日本グッドパーツ/本部・東京)には現在、解体業者を始め中古車業者、修理工場、再生業者など全国で190社ほどあり、各社がコンピューターでオンライン化され、再生部品の情報が飛び交っています。一口に補修部品といっても自動車は約3万点にもものぼる部品から構成されており、しかも年代、車種などを考慮すると膨大な点数になります。再生部品ではこれだけのニーズに応えるには1社ではとても無理です。これを可能にしたのがNGPのシステムで、インターネットで全国の拠点をオンラインで結び、規模やストックヤードの問題をクリア。ネット上には常に全国の拠点から最新のリサイクルパーツが紹介され、常時65万点以上の情報が集まり、ユーザーから見れば、百貨店や総合メーカーといった感じ。あらゆる部品があります。また、ユーザーがもっとも気にしている品質面では、廃車から取り出された部品は、ひとつひとつ“美化作業”という清掃・点検を行ない、部品の性能チェック、キズの有無がていねいに調べられ、コンピューターに入力。また、エンジンやミッションなどオーバーホールが必要なものは専門のリビルト業者に協力してもらい、完全に修理したものを入力するなど、独自の厳しい品質検査体制と基準を設け、全



国統一化していることが信頼につながっています。

消費者ばかりでなく市場関係の反応も良く「解体部品を欲しいという修理業者が多くいたこと、中古部品で修理代を安くしたい。」など評判は上々。同社には、電話やFAXによる問合せが1日に30件から多いときには60件～70件あり、地元だけでなく北海道から九州まで全国から殺到、パソコンにむかう多忙な業務が続いています。



補修部品への供給率5%を30%～40%へ。 新サービスの開発も積極的に展開。

環境にやさしい車社会を目指して、自動車のリサイクルは大きな領域です。メーカー自体も積極的に取り組み、車全体のリサイクル率はかなり高くなりましたが、リユースの面では、まだまだ他の国々より遅れており、現在補修部品へのリサイクル率は5%程度です。欧米では既に30%～40%がリサイクルパーツを使用しており、広く受け入れられています。

わが国では年間500万台が廃車になり、取り出して再生され、商品となるのが5%にすぎません

が、ネットビジネスにより、やっと市場がオープンになり、多くの方々に魅力ある情報を提供できるようになったといえます。同社ではNGPと一体となり、さらにこのマーケットファンを拡大し、安定した市場の確立を狙いユーザーの信頼を高めていくとのこと。厳しい全国統一品質管理基準やリサイクルパーツへ最高3ヵ月の品質保障もその一つ。また、保険会社と契約し車両保険割引商品に対応した保険付「リサイクル部品使用特約」を開発。このサービスは、保険契約者はドアのへこみなど、車両保険を使用して車を修理する場合、新品部品の代わりにリサイクル部品を使用すれば車両保険分を最高8%割引くもの。業界初の特約となる保険商品で、さらに需要の拡大が見込まれており、同社ではドア、フェンダー、バンパーを中心に、リサイクルパーツの充実を図っています。

自動車国際化の日本一の基地“豊橋港”

豊橋港を含め三河港は、完成自動車の輸入、輸出港としてわが国1位の実績を誇り、世界でも3本の指に入るなど、自動車港として成長しています(2000年貿易額ベース)。同社では、こうした地域資源を生かし、自動車のリサイクルやエコカーの集約地、情報発信地にしたいと考えており、東三河懇話会の「国際自動車コンプレックス研究会」の

メンバーとして、これからのリサイクル社会の動向、地域活性化を含めた新しい時代の情報ビジネスに意欲をもやしています。

